

応募様式

地方創生に結びついたレファレンス事例

1. レファレンス事例のテーマ（応募名となります。）

テーマ（15字内） 映像資料による郷土の魅力再発見
副題（字数制限なし） 児島～過去から現在そして未来へつなぐ～

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者属性	いずれかに○をしてください。 ・ 図書館 ・ 図書館利用者（個人） ・ 図書館利用者（法人・団体等）	
代表者氏名	橋本 力 （はしもと りき）	
所属・職名等	岡山理科大学教育学部 3 年生	
連絡先	担当者	岡山県立図書館社会科学班 佐藤 賢二 岡山県立図書館総合サービス班 二熊 恒平
	〒所在地	〒700-0823 岡山市北区丸の内 2-6-30
	電 話	
	F A X	
	e-mail	

（図書館の蔵書冊数について、平成 30 年 3 月末日の概数を記入してください。）

レファレンスサービス を提供または受けた 図書館名と蔵書数	図書館名： 岡山県立図書館	蔵書冊数： 約 144 万冊
-------------------------------------	------------------	-------------------

3. レファレンスサービスを実施した／受けた時期

平成 29 年 03 月頃

4. 公表について

「1. レファレンス事例のテーマ」及び「2. 応募者（連絡先は除く。）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに

同意します

同意しません

（いずれかに○をしてください。）

5. 質問の詳細と背景 ※枠の大きさは適宜調整してください。

私は、教育学部に所属する大学生で、将来は小学校教諭として働くことを目指しています。授業で「郷土愛」を児童に教えるためには、まず私自身が自分の出身地である倉敷市児島のことを熟知する必要があると思い、参考資料を求めて岡山県立図書館の郷土資料部門を訪れたのが2017(平成29)年3月のことでした。

その当時、岡山県立図書館ではアニメ映画『ひるね姫～知らないワタシの物語～』の公開にあわせて、「ひるね姫—児島・下津井を歩く」という企画展示が開催されていました。展示されている資料を読むだけでもある程度の情報を得ることができましたが、もっと詳しく知りたいと考えてレファレンスサービスを利用することにしました。岡山県立図書館にレファレンスをお願いしたのは、以下の項目に関することでした。

- (1) 「ジーンズストリート」に関する資料（誕生の経緯、歴史、現状）の提供
- (2) 児島の歴史がわかる資料の提供
- (3) 児島活性化のための行政の取り組みがわかる資料・情報の調査

6. 図書館からの回答内容 ※枠の大きさは適宜調整してください。

上記の(1)～(3)について、岡山県立図書館から以下の回答がありました。
(1) 人通りが少なくシャッター通りと言われた味野商店街が、地場の繊維産業を核に商工会議所や自治体などと連携して2009年にジーンズストリートを立ち上げました。今では「ジーンズの聖地」として年間15万人を超える観光客が集まる商店街に生まれ変わり、現在35店舗が営業していることがわかりました。提示された資料は以下の通りです。

- ・「産業観光で産地活性化」『おかやま財界』Vol. 41. No. 17, 2012. 9, p. 4-7.
- ・加藤年男「地方創生キラリと光る地域発企業（株）ジャパンプルー「ジーンズストリート」を仕掛け発祥の地、倉敷市児島の復権目指す」『商工ジャーナル』Vol. 42 No. 9, 2016. 9, p. 58-60
- ・「児島ジーンズストリート構想」『月刊事業構想』2014. 3. No. 18 p. 122
- ・岡山県産業労働部観光課編『岡山県観光客動態調査報告書 平成28年』岡山県産業労働部観光課, 2017, 26p. 参照は p. 4-9 p. 14-17

商店街の活性化やシャッター通りからの再生事例に関する本も数多く提示された中で、『ダメな商店街を活性化する8つのポイント』（鈴木健介著、同友館, 2010, 234p. 参照は p. 144-223）の中に味野商店街の再生が成功した要因を確認できました。この本で紹介されていた具体的な8つのポイントは、①マーケット

リサーチを徹底し商店街そのもののコンセプトを明確にする ②店主のための商店街ではなく、消費者のための商店街をつくる ③通りはカラータイルではなく、材木で作る ④アーケードはいらない ⑤通りの幅は狭くする ⑥コミュニティの場とする ⑦年配者に配慮した街づくり ⑧ブランド商店街を目指す でした。ジーンズストリートでは③を除いた7つのポイントがあてはまりました。著者のポイントとは異なり、通りは材木ではなくジーンズカラーの藍色で舗装されていますが、ジーンズのコンセプトにはぴったり適合しており、これもジーンズストリート成功の要因になっていると感じました。

(2) 児島では昔から綿花の栽培がさかんに行われ、木綿産業が発展し、寛政年間(1789~1801)頃から小倉織や真田紐、雲才足袋などの生産が始まりました。明治15(1882)年に下村紡績が綿糸の生産を開始し、大正時代には足袋の生産地として国内最大の規模を誇っていました。また、昭和30年頃には全国の学生服の7割が児島産でした。足袋、学生服・作業服と生産の中心は移り変わり、昭和40(1965)年に国内で初めてジーンズが生産され、今日では日本のジーンズの主力生産地となっていることが記述されていました。このレファレンスで提示された資料のうち、参考になったのは以下の資料でした。

- ・角田直一『児島の日本一物語』児島ライオンズクラブ, 1988, 184p. 参照は p. 13-32, p. 63-73, p. 145-152
- ・猪木正実『繊維王国おかやま今昔』日本文教出版, 2013, 156p. 参照は p. 82-153
- ・杉山慎策『日本ジーンズ物語』吉備人出版, 2009, 229p. 参照は p. 12-32

(3) 主に岡山県と倉敷市による取組についてホームページや新聞記事を中心に紹介を受けました。

○岡山県の取り組み

(online). available from <http://www.pref.okayama.jp/site/presssystem/507301.html> (accessed 2018-08-21)

- ・映画「ひるね姫」とタイアップした倉敷市のPR
- ・首都圏アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」での「ひるね姫食堂」の期間限定開店

○倉敷市の取り組み

(online). available from <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/> (accessed 2018-08-21)

- ・「ひるね姫×くらしき」スタンプラリーキャンペーン
2017(平成29)年03月01日-06月30日
- ・「ひるね姫×くらしき」フォトラリーキャンペーン
2017(平成29)年07月25日-11月30日
- ・「くらしきコットンプロジェクト」(倉敷市制50周年記念事業)
- ・ストーリー「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」の「日本遺産」認定 2017(平成29)年04月28日
- ・朝日新聞朝刊 2016(平成28)年09月01日 29ページ(岡山版)

- ・山陽新聞朝刊 2016(平成28)年09月08日 24ページ
- ・山陽新聞朝刊 2016(平成28)年12月10日 26ページ
- ・山陽新聞朝刊 2017(平成29)年02月23日 30ページ

(1)～(3)のレファレンス回答を受け、綿花が児島発展の源流となったことがわかったので、追加で綿花栽培、糸繰り・糸紡ぎに関する資料、ならびにタデアイの栽培、藍染めに関する資料を紹介してもらいました。紹介された資料は以下の通りでした。

- ・大野泰雄『はじめての綿づくり』木魂社,1986,132p. 参照は p.10-17 p.70-77
- ・ひびあきら『ワタの絵本』農山漁村文化協会,1998,36p. 参照は p.24-25 p.32-35
- ・村田浩子『子どもと楽しむ染め時間!』かもがわ出版,2011,69p. 参照は p.34-46
- ・『藍で染めるカンタン絞り染め 続』スタジオタッククリエイティブ,2014,103p. 参照は p.10-22
- ・やまざきかずき『藍染の絵本』農山漁村文化協会,2008,36p. 参照は p.12-19 p.32-35

7. 今回の応募事例が地方創生に結びついた成果・効果

※枠の大きさは適宜調整してください。

今回のレファレンスは私への回答にとどまらず、図書館の「綿の糸紡ぎにチャレンジ!」という体験講座や展示、映像資料「児島～過去から現在そして未来へつなぐ」の制作などいろいろな形に発展していきました。私自身はこのレファレンスの回答を受けて、実際に綿花を栽培して児島の歴史と産業史を体験できればどれほどすばらしいかと思っていました。そして岡山県立図書館と共に児島の歴史を知るために綿花栽培と藍染め用のタデアイの栽培を実施しました。私はレファレンスを受けるだけでなく、講座のボランティアスタッフとして参加し、映像資料のBGM(ピアノ演奏)を担当し、図書館の活動に深く関わる貴重な経験をすることができました。このように図書館が一つのレファレンスを活用する過程を、一緒に体験できたことはとても良かったと思います。

私が岡山県立図書館にお願いしたレファレンスが契機となり岡山県立図書館が映像資料を制作することで、すぐれた郷土学習教材が完成しました。映像を見た人たちが郷土の魅力を再発見して新たな疑問から別のレファレンスをするというフィードバックが生まれますし、出来上がった映像資料を学校教育だけでなく児島地域でのイベント等で活用することにより地方創生へとつながっていくと思います。岡山県立図書館がこの映像資料をDVDにして小学校や図書館・教育機関へ配付したり、デジタル岡山大百科内での動画配信により「児島」を積極的に情報発信したりしたことは、児島を身近に感じてもらう絶好の機会となり、地方創生の気運を高めていったと思います。

(参照)

- ・県立図書館とことん活用講座特別編「綿の糸紡ぎにチャレンジ!～図書館で育てた綿から糸を作ってみよう、染めてみよう～」(平成29年9月30日実施)
(online). available from <http://www.libnet.pref.okayama.jp/event/2017/to>

koton/tokoton20170930/houkoku.htm (accessed 2018-08-21)

・岡山県立図書館制作DVD『児島～過去から現在そして未来へつなぐ～』の貸出について(online). available from <http://www.libnet.pref.okayama.jp/news/h30/news201807dvd.html> (accessed 2018-08-21)

・映像資料『児島～過去から現在そして未来へつなぐ』（デジタル岡山大百科で公開）(online). available from http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/detail-jp_c/id/kyo/M2018033010211290395 (accessed 2018-08-21)

8. 今後の課題・展望 ※枠の大きさは適宜調整してください。

・今回応募したレファレンス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記載してください。

図書館でのレファレンスには利用する人の興味・関心が詰まっています。レファレンス事例をもとにした教養講座を図書館で開催すれば、多くの人が講座に興味を持ち、講座への参加者が増えて図書館活動もより活性化されるのではないでしょうか。私は今後も図書館へのレファレンスをお願いしていくつもりなので、図書館には継続的なサポート体制をお願いしたいです。

私は、今後教員となり、児島の魅力を伝える努力を惜しまずに子供たちの教育に携わりたいと思います。将来は制作された映像資料を教育現場で活用し、地元の小学生に児島の魅力を伝えていくつもりです。その際には映像資料だけでなく、この映像資料を活用した小学校の先生が教育現場で実践された第5学年社会科の学習指導案「井原市と倉敷市児島のデニム（ジーンズ）産業」（Web ページ「岡山県立図書館制作DVD『児島～過去から現在そして未来へつなぐ～』の貸出について」でネット公開中）も大変役に立つと思います。この指導案に触発されて、私は児島と井原の綿花栽培・繊維産業発展の類似点・相違点ならびに両地方の関係性について新たなレファレンスをお願いしました。私自身もできるだけ多くの人たちに映像資料と学習指導案のすばらしさをPRしようと思いますが、個人の方では限界があるので、図書館が主体となって広報活動を継続的に行い、多くの人に周知してもらえればと願っています。

私は、児島を誇りに感じる子供の育成こそが地方創生につながるという信念のもと、今後も教育による地方創生を進めていきたいと思っています。そのためにも、図書館のレファレンスサービスは欠くことのできない大切なものとして活用すると共に、レファレンスの有用性を子どもたちにも知らせて図書館の利用促進を進めたいと考えています。

(注)

- 1 本様式の作成にあたっては、全体で5ページ以内に収めてください。
- 2 本様式とは別に参考資料を添付していただくことも可能ですが、資料のサイズはA4サイズとしてください。
- 3 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。